


令和3年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

- | | |
|-----|------------------------------------|
| I | スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び |
| II | マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成 |
| III | スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築 |
| IV | 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成 |
| V | スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成 |

道府県・政令市名【 愛媛県 】

学校名【 愛媛県立八幡浜高等学校 】

1 実践テーマ	V
2 実施対象者 (学年・人数)	全校生徒 562名 教職員 38名 (1年 186名 2年 184名 3年 192名)
3 展開の形式	(1) 学校における活動 ① 教科名 () ② 行事名 (文化祭 文化講演会・ホパラ講演会) ③ その他 () (2) 地域における活動 ① イベント名 () ② その他 ()
4 目標 (ねらい)	東京オリンピック・パラリンピックへの興味・関心を高め、スポーツ文化を育む。 本校OBで、陸上110mHで東京オリンピック代表を目指した野本周成選手を招聘して、自身の体験やオリンピックへの想いを講演していただき、スポーツへの意識の向上、生徒の人間形成を高める機会とする。
5 取組内容	前年度、野本選手には、県のスポーツ専門員として体育の陸上の授業でハードルの指導をしていただいた。  講演会の前にデモンストレーションとして、本校陸上部生徒と野本選手がハードリングの実演を行った。



高校時代の野本選手を指導し、現在、県競技スポーツ課指導主事の中野敦之先生と「スポーツとは」～八幡浜から世界へ～という演題で講演していただいた。





野本選手に八幡浜高校在学時から 10 年間の陸上生活の苦勞と楽しさを生徒たちに伝えてもらった。

たくさんの苦勞の中でも関わった方に支えられて「陸上を誰かのためにする」から「誰かのおかげで好きなものができる」と心情が変わり陸上人生の基点となったそうで、生徒たちは支えてくれる人たちがいるからこそ、好きなことができるということを改めて考えるキッカケになった。



6 主な成果

オリンピック代表目前までいったトップアスリートの地元の先輩から話を聞いたことは、生徒にとって貴重な経験となった。高校時代の部活動の体験談から、生徒は身近に感じることができ、大きな目標をもって努力することの大切さを改めて知ることができた。

野本選手は、次回のパリオリンピックを目指し今後も活動していくことから、生徒の興味・関心・期待も高まっていくと思われる。

<p>7実践において工夫した点 (事業の特色)</p>	<p>地元出身で、オリンピックに関係した本校の卒業生を講師として招くことができた。 陸上競技、水泳が全国大会に数多く出場しており、その競技に関連した講師を招聘するようにした。</p>
<p>8主な課題等</p>	<p>東京オリンピック・パラリンピックの開催が終わった後での実施であったので、オリンピック・パラリンピックに関しての生徒の興味・関心は低くなっていることが予想された。 コロナ禍で年間を通して計画的な活動ができなかった。</p>
<p>9来年度以降の実施予定</p>	<p>コロナ禍の状況で活動の制限が厳しい中、もう少し工夫すればできる活動があるのではないかと思う。パラリンピック競技などを、学校行事でのイベント競技に加えるなどの検討をしていきたい。</p>